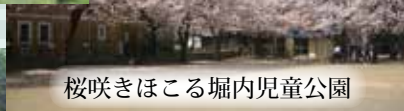


葉山の仲間たち

2013年1月25日発行 第13号
NPO法人葉山まちづくり協会
〒240-0112 三浦郡葉山町堀内1874
葉山町立図書館2階
TEL&FAX 046-876-0421
e-mail: office@hayama-npo.or.jp



森戸川上流でみられるサンコウチョウ



桜咲きほこる堀内児童公園



花の木公園のつつじ

春

時が目覚める

夏

熱くなる人々



咲く日が待ち遠しい



夜空を彩る葉山海岸花火大会

秋

総りと感謝



光輝くダイヤモンド富士



盛り上がる森戸大明神例大祭



日本ヨット発祥の地 葉山港

葉山の四季を綴る

春夏秋冬、自然豊かな葉山の素敵み一つけた♪
あなたのとおきの季節はいつ？

写真絵ハガキ

わたしのまち葉山

シリーズ1・風景 発売中！
恵み豊かな葉山で暮らす喜びを
全国に発信しましょう！



今年もコピーや作業には葉山まちづくり館をご活用ください

1

葉山まちづくり協会



名島の鳥居に重なるまん丸の夕日



真名瀬 元日の大漁旗

冬

豊漁と祈り



さまざまな表情を見せる森戸海岸

とっておきの葉山

たとえば友人が葉山を訪れることになったら、ぜひ連れて行ってあげたいおすすめスポットをふたつご紹介。

まずは横須賀市と葉山町の堺に位置する岬、長者ヶ崎。

上空から見ると

瘦せた蛇の背の

ようなので、長

蛇ヶ崎と記され

ていたことがそ

の名前の由来で

ある。峰山に大蛇が棲んでいて、海上の

尾ヶ島が尾を現しているという伝説もある。

冬には江ノ島、伊豆半島はもちろん

富士山を一望できる葉山でも有名な夕日

スポットで「神奈川県景勝50選」のひとつ

に指定されている。長者ヶ崎駐車場は

平日には家族やお友達と、また犬の散歩

をするものんびりとして絵になる。

駐車場の奥では、50年間営業している

昭和の懐かしい風情を感じるおみやげ

屋兼食堂が

あり軽食が

いただける。

ここからの

景色は、湘

南の海と遠

くに丹沢山

系まで見渡



長者ヶ崎の50年間を見つめてきた食堂



大蛇のような長者ヶ崎

せるので穴場。

もうひとつのおすすめは三ヶ岡ハイキングコース。三ヶ岡は旧役場から真名

瀬へ東西に横た

わる細長い丘陵

で標高は143

m、ハイキング

道はアップダウ

ンはあるものの

きれいに整備さ

れている。途中

に4か所の広場があり、休憩しながら無

理のない散策が楽しめる。

足元には野の花が咲き、歩く者の目を

留める。野鳥の棲み

かとなっており、ど

こからか聞こえてく

るさえずりに耳を傾

けたくなる。山頂か

ら少し西にある展望

台からは眼下に堀内の街、海、富士山、

左手に御用邸が一望できて眺めはまさに

180度のパノラマ。

おいしいレストランやおしゃれなお店

を訪ねたついでに、葉山にしかない海や

森の風・音・香りを感じて、心になっ

ぷりのお

土産を詰

め込んで

もらえた

らシアワ

セ。



みんなに見せたい景色



ヨメナの素朴な白い花

2月 3月 イベント情報

集まれ仲間！ 「自然ふれあいの森」づくり

湘南国際村「めぐりの森」で山仕事
～下草刈りやススキ野の整備を楽しみましょう～

日時 1月～3月の第2・3・4土曜日
9時～15時（半日だけの参加もOK！）
集合 9時（湘南国際村めぐりの森入口）
持ち物 弁当、飲み物、手袋、作業しやすい服装
問合せ 080（5475）1395
三浦半島「自然ふれあい楽校」野崎

日本の里100選 記念コンサート

～ 崔宗宝（バリトン）～
日本・中国二つの故郷を歌う全国100回公演
第28回 in 葉山上山口

日時 3月10日（日）14時～16時
場所 上山口会館集会所（無料）
出演 バリトン 崔宗宝氏
主催：上山口町内会
協力：崔宗宝音楽事務所
後援：朝日新聞社（公財）森林文化協会



みんなで歌おう♪ アミスタ（友情）会

みんなの知っている曲を歌います。
楽しく歌って健康に♪

日時 2月24日（日）14時～16時
場所 葉山町福祉文化会館 大会議室
問合せ 046（875）0029
60歳から音楽教室 高梨

春の山路ハイキング

ハイキングに出かけて
ひと足先に春を感じよう

日時 3月2日（土）※雨天中止
集合 9時40分（御用邸前広場 恩光碑前）
コース 大池～国際村～大楠山～前田川遊歩道
～前田橋バス停（15時解散）
持ち物 弁当、飲み物
（小学4年生以下は保護者同伴で）
参加費 300円（保険・資料代）
問合せ 046（878）7431
葉山・山楽会 伊東

そろそろウグイスの声が聞こえてきそう・・・

4

葉山まちづくり協会

仏像、面、横笛と彫刻刀一本の趣味の世界

横須賀大矢部にお住まいの鈴木昭二さんは、三浦半島の中で歴史の活動をしている葉山郷土史研究会を知り、もともと古文書の整理をしていたので同会に入会、今では葉山人より葉山通。若い時にはゴルフ、ヨット、釣りなどアウトドア派でしたが体力的に出来なくなり「何かインドアのものをやらなくちゃ！」と、思っていた時に横須賀の仏像教室に入会。子どもの頃より器用で物作りが得意だった鈴木さん、以来彫刻に目覚めたそうです。初めて彫った般若の面はとても素人とは思えないものです。他に小面(若い女)、翁をはじめ、数々の仏像を作成し今では彫刻刀は60本。



以来裏山の竹で笛、立つたまま使える長い靴べら、3段の折りたたみ杖、行灯などを作成されています。行灯は鈴木さんに言わせれば「これは竹を自分のすきなように切り抜くだけです」

ごく簡単、誰にでもすぐに出来るから作りたかったら来ればいいよ」とやさしいお言葉。技術屋だったので作品のつなぎ部分や留め金具などにはいろいろな工夫がされている。



おしゃれな袋に入った笛

お祭に子供たちが吹く笛が足りないと言えは裏山より竹を取ってきて笛を作る。鈴木さん自身は笛を吹けないので専門家に吹いて貰って良いといわれてからお洒落な袋に入れてプレゼントし、とても喜ばれ「子どもたちからは笛のおじちゃんと呼ばれているんだよ」と思わず笑みが。10本の竹を取ってきて使えるのは2〜3本、自然の竹なので太さが同じ竹はなく、吹き手によって高い音、低い音それぞれ音色が違い自分だけの音色がでるのです。

「人に使ってもらってこそ趣味が生まれてくるし、大きな課題の方がやりがいがある。」と次々と新たなものに挑戦され生き生きとされている鈴木さん、次はどんな作が増えるのでしょうか。



淡く光る行灯

食事サービスで高齢社会を支える「オアシス」

食事作りが困難な方に昼食を届けている配食サービスグループです。「オアシス」とは砂漠で、水が湧き草木が茂っているところを意味し転じて「憩いの場」の意に用いられることからグループの名前とし今年で約20年になります。「オアシス」は「葉山高齢社会をよくする会」から生まれました。

「歳をとったり、障害があったり、病気になったり、介護でつかれたりして食事がづくりが大変になったとき、普段自分たちが食べているような食事が届けられたらどんなにいいでしょう」という思いから始められたそうです。

お届けする日は、月曜と木曜の週2回。1回600円。月曜は葉桜会館、木曜は上山口会館で調理しています。

献立は栄養士が順番で作り、旬の野菜と天然だしを生かした塩分控えめの手料理です。



戻って来てから皆でこの日の試食会。「この試食会が大事な仕事で楽しい時間です。」と代表の櫻井さん。皆でワイワイ今日の料



連携作業の合った息

理についての話。この日配達したのは30軒、これは少ないほうで多い時には50軒もあります。食べやすいようにすべて細かく刻むなど、利用者の要望に応じています。70歳〜80歳の一人暮らしの方が多くので配達日を忘れ出かけてしまう人、一人暮らしが無理になり何処かに移られる人、その時々いろんな事が起きましたが活動を継続して来しました。

会員は現在72名(男性4名)。お友達に誘われて参加されている人も。それまで働いていて知ることが出来なかった地域のことを知りたいと定年後、広報の募集を見て参加してもう10年になる人も。「調理してから配達するのは大変ではないですか？」とおたずねしたら「お弁当を待っていてくれる人と話す何気ない会話がとても楽しいですよ」と元氣な声が返ってきました。

高齢社会を支える事業は、まだスタートしたばかりです。



色とりどりの包みで

家紋は一族のルーツ。解明には地道な調査が必要

葉山に古くからある家の家紋を調査研究されている今井俊夫さん(葉山郷土史研究会)にお話をうかがった。

紋章は公家社会において車・御輿や調度品などに好みの文様を付けて自分の持ち物を区別したのが始まりで、武家社会では陣幕や旗の紋章から発したと考えられている。目印としての紋章は江戸時代に公の儀礼や社交の場で家格を識別する家紋に変わって行った。一般庶民は名字を使えなかったが、家紋については「葵紋」以外は自由に使えたのでしだいに増え、明治時代になって庶民に広がり一気に種類が増えたようだ。現在日本全国で家紋の種類は二万〜三万種といわれている。

家紋は一つの姓に一つが対応しているとは限らないようだ。たとえば葉山町木古庭の伊東姓、どこも「木瓜」だが家により少し違う。「庵木瓜」「井桁に木瓜」「丸に横木瓜」と3種類ある。同じ地区の同じ姓でもいろいろな家紋を使っている。たとえば一色の鈴木姓「丸に三つ柏」6軒、「丸に横木瓜」3軒、「丸に違い鷹の羽」



丸に桔梗



丸に違い鷹の羽



丸に薦



丸に三つ柏



丸に横木瓜



井桁木瓜



庵木瓜

3軒というようだ。だが、地区によっては同姓に同じ家紋が集まっているところもある。葉山の(古くからある家の)家紋は500軒の調査で58種類。その中で数の多いのは順に「丸に薦」76軒、「丸に違い鷹の羽」64軒「丸に桔梗」53軒、となっている。

今井さんの家紋の調査は古文書で古い家を調べ、そこに記述された家々を訪ね聞き取りを重ねることが基本になっている。家紋がわからなくなっている家のものは墓石に彫られた家紋をみて確認する。郷土史を調べるときに墓は情報の宝庫と今井さんは言う。

これまで木古庭、上山口、下山口、堀内、一色と調べ「郷土誌葉山」の5号〜9号に発表してきて、あとは長柄のみ。その調査も終わりに現在執筆中。長柄は2013年4月発行の「郷土誌葉山」第10号に掲載予定だ。

これで葉山の家紋のすべてが発表されることになる。どうぞお楽しみに！

観音様に導かれて自分の心と向き合う



一色 玉蔵院 虚空菩薩坐像

新年を迎えたにぎやかさも落ち着いてきた頃、心も新たにこれからの日々を歩もうと考える人も多いことだろう。何かを心に決めるときや願いを掛けるとき、ふらっとお寺を訪ねて仏像に手を合わせたくなるのは日本人の心。観音様の凛としたたずまいと優しいお顔を見ていると、思うままに進みなさいと背中をそっと押されるような気がしてこないだろうか。

葉山には三浦三十三観音の三つの札所がある。鑑摺(かんすゐ)の海寶寺、一色の玉蔵院、上山口の観正院がそれで、緑深く静けさにつつまれた境内にあるお堂には、町の文化財に指定されているものや歴史的に価値の高い観音像が納められている。観正院の十一面観音像は運慶の作と言われている。観音様のお顔はやさしく微笑んでいるようにも怒っているようにも見える。観音様の本質は慈悲で、人々を常に観ていて救いの声(音)があれば瞬く間に救済するとされているが、悪いことを



上山口 観正院 十一面観音像

すれば怒りの形相を示し、良いことをすればほめてくれる。観音様にお願いを聞いてもらえばかりはなく、ときにはぎりぎりにとらんでもらって自分を省みることも大人には必要なものかもしれない。子どもの頃仏像を見るのが怖かったのは、父や母にもみつからなかった内緒ごとが観音様に見抜かれるような気がしていたのだろうか。上目使いにこわごとを見上げていた自分の姿を思い出す。

冬来たりなば春遠からじ・・・もうすぐやってくる春を控えた今こそ、キンと冷えて澄んだ空気の中近くのお寺を訪ね、ひっそりと佇むお堂で観音像を拝顔し静かに自分の心と向き合う時間を持ちたい。観音様の視線がそっと心によりそってくれるだろう。

三浦三十三観音は平成二十六年に本開帳を迎える。



鑑摺 海寶寺 地藏